

令和2年度 第2回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	令和2年8月25日（火）午後7時00分～9時00分
開催場所	前原町西之台会館
参加者	男性 4名 女性 4名 計8名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ（市政報告） 3 懇 談 フリーテーマ 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none">・ 市民と市長の座談会について・ フェイスブックのアカウントの取得について・ 市民とのコミュニケーションについて・ 市の長期的なビジョンについて・ ごみ非常事態宣言について・ ごみの分別について・ 街路灯について・ 市の財政状況について・ 市の職員の対応について・ 「人と人とのつながりを大切にするまち」について・ 公共施設の再配置について・ 市歌の活用方法について
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 2名

令和2年度第2回市民と市長の座談会

令和2年8月25日

1 開 会

○司会者

皆様、こんばんは。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます広報秘書課長の天野と申します。よろしく願いいたします。新型コロナウイルス感染症の防止対策といたしまして、着座のまま、またマスク着用のみで進行させていただきます。初めに配付物の確認をさせていただきます。1点目、次第。2点目、アンケート。3点目、令和2年度施政方針。4点目、令和2年度小金井市予算の概要。こちらは、主な事業の紹介ということで、14ページから26ページまでを抜粋したものになります。その次が新型コロナウイルス感染症小金井市緊急対応方針（第2弾）。続きまして、新型コロナウイルス感染症小金井市緊急対応方針（第3弾）。「市報こがねい」7月1日号5面のPDF版。こちらは、令和2年第2回小金井市議会定例会補正予算による新型コロナウイルス感染症対策についての記事で、緊急対応方針（第2弾）で実施する施策の予算規模を示したものでございます。続きまして、令和2年第2回小金井市議会臨時会補正予算における新型コロナウイルス感染症について、こちらは、緊急対応方針（第3弾）で実施する施策の予算規模を示したものでございます。あらかじめ、個別に皆様に用意したのは、以上8点でございます。このほか、受付のほうで自由におとりいただけるものといたしまして、「みんなで築こう 人権の世紀」という小冊子とクリアファイル、それから「小金井市はこんなところですよ。」というリーフレット、「小金井の坂と遊歩道マップ」、「障害者（児）・家族 防犯のパンフレット」、以上4点がございます。資料のほう、お揃いでしょうか。開催に当たりまして、事務局よりご説明申し上げます。この座談会は平成28年度から開始しているものです。毎年、年に4回、市民の皆様と市長とのフリートークということで開催をしております。本日は本年度の第2回目の開催でございます。本日の進め方でございますが、初めに市政報告ということで、重要課題の進捗状況につきまして、市長の西岡より簡単に報告させていただきます。その後、意見交換ということで、皆様から自由にご発言いただき、それに対しまして市長がお答えするという形で、進めさせていただきます。懇談に入る前に、事務局より5点ほどご了承いた

だきたいと存じます。1点目、懇談中は、議事録作成のため録音をさせていただきます。2点目、懇談の様子を撮影した写真をホームページに掲載させていただきます。写真に写るのに支障ある方は今、この場で挙手をお願いいたします。3点目、懇談中は、ご発言される時も含め、必ずマスクを着用していただきたいと思います。4点目、ご発言をされる方にはマイクをお渡ししますが、その都度、消毒をいたしますので、通常より時間がかかるかもしれませんが、ご容赦いただきたいと思います。最後に5点目といたしまして、本日の終了時刻は午後9時までとなっております。会場を撤収する都合上、終了後につきましては速やかにご退場いただきますよう、ご協力をお願いいたします。では、次第に従いまして、市長の西岡よりご挨拶と市政報告をさせていただきます。

2 市長あいさつ（市政報告）

○西岡市長

皆様、こんばんは。小金井市長の西岡真一郎でございます。本日は平日の夜7時からの開催でございますが、大変お忙しい中をまた猛暑の中を市民と市長の座談会にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染防止対策といたしまして、マスクを着用したままで話をさせていただきます。なるべく聞きづらくないよう心がけて、お話をしてみたいと思いますが、ご理解のほど、よろしく願いいたします。また、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向けた様々な取組を行っているさなかでございますので、感染予防に配慮した形での開催となっておりますので、その点も併せてご理解をいただきたいと思います。また、本日は夜9時までの開催でございます。私のほうから、これから正味20分から25分程度いただきまして、項目は絞りますけれども、現状の市政報告や、私が鋭意取り組んでまいりました最重要課題の進捗状況などにつきまして、お話をさせていただきます。その後は、特にテーマを設けませんで、参加者の皆様方から様々なご意見を幅広く、小金井市政などに関するご意見、ご質問、ご提言などをお寄せいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。また、今年は今日で2回目の開催になります。市民と市長の座談会は、私が市長に就任をさせていただいてから、新たに始めたものでございまして、今年で5年目、年に4回開催しております。今年は5月に開催する予定でしたが、緊急事態宣言発令中ということで、延期をさせていただきまして、8月の開催となりました。4回のうち2回目となっております。3回、4回につ

きましては11月ごろに開催をさせていただきたいと考えているところでございます。この座談会につきましては、幅広いご意見をいただきまして、可能な限りそういったお声を市政に反映していけるようにしていくことを目的としておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

それでは、私のほうから冒頭少し発言をさせていただきたいと思います。まず、小金井市の最近の人口の状況でございます。今年の8月1日現在の最新の人口は12万3,264人。前月に比べて200人以上増加しております。世帯数も6万1,661世帯になっております。東京都は、3日ぐらい前の報道では、戦後初めて東京全体の人口が減少に転じたという報道がございました。1,400万人を下回ったということであります。一方、小金井市はといいますと、新型コロナウイルスの影響も種々様々な分野に及ぶかと考えておりましたが、小金井市はそういう状況ではなく、人口は微増状況が依然続いている状況でございます。それも相まって、武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発事業によりまして、716世帯の新たな分譲マンションが誕生し、順次入居も行われているといったことも併せまして、人口が増えています。特に小金井市の人口の特徴は、ファミリー世帯の方々の転入超過ということでございまして、出生率はほぼ横ばいでありまして、子どもたちの数は増え続けています。今後、小学校・中学校では、このままの人口推移でいきますと、小学校だけでも10クラス程度、市全体で増やさなければいけないというデータが、東京都から示されている状況です。待機児童の解消に、この5年間、全力を挙げてまいりました。私が市長に就任したときに2,000名であった保育園の全定員数は、4年間で1,000名以上増加して、現在は3,000名を超えております。さらに新たな任期では、プラス1,000名を増員する計画でございまして、2,000名から4,000名へと増えている渦中にあります。残念ながら、今年4月1日現在の待機児童数は97名ということでございまして、都内では、人口水準からいたしますと、待機児童の出現率は高い位置にあります。ここまで取組を進めているところでありますが、ファミリー世帯の方々の転入超過という状況も含めて、さらに計画数を上回る取組を行っていきたいと思っております。今年4月1日から来年の4月1日、来年の4月1日に行う新設で、計画数は380名以上の保育園定員数を増やしておりますが、この計画を上回る計画で今、新しい4月1日の入園募集に向けて、準備をしているところであります。来年はさらに待機児童が限りなくゼロに近づく、あるいはゼロを達成できるように、担当職員ともども、一生懸命頑張りたいと思っております。また小金井市の人口の特徴、様々あるんで

すけれども、平均年齢が若いという特徴があります。小金井市の市民の平均年齢、平成30年の東京都の最新データでは、市民の平均年齢44.11歳。これは、多摩地域で実は2番目に若い位置を占めております。一番若いところは稲城市でございまして、43.9歳ぐらいだったと思います。差はわずかなんですけれども、しかし、人口全体の平均値、数値は大きく変動するのは、なかなか困難でありますけれども、やっぱり学生さんが多い。ファミリー世帯が多いといった特徴のある、しかし、小金井市も確実に高齢化率は増えて続けているのも、もちろんです。小金井市の高齢化率は21%台、全国が28%台ですから、平均的には高齢者の比率は低い位置にあります。しかし、超高齢化社会の波は確実に近づいている。そういった少子高齢、人口減少高齢化社会の到来を見据えて、持続可能なまちとして、これからも小金井市が存続していけるように、一生懸命頑張ったいと思っております。まず冒頭、人口や最新の小金井市の状況についてお伝えしました。

続きまして、皆様方もご関心の非常に高い新型コロナウイルス感染症対策などについて、お話をさせていただきます。この未知のウイルス、私たち今を生きる日本人が初めて直面するパンデミック。このウイルスに対するワクチンや特效薬は、いまだ開発途上であります。先日、コロナ専門家有志の会、8月23日にホームページで公表し、8月21日に分科会で議論された概要が公表されております。私もそれを読ませていただきました。ワクチンの開発はいまだ不明。重症化リスクに対応するワクチンの可能性が高い。ワクチンができたとしても、優先順位をつけて、ワクチン接種の議論を今からしていかなければいけないなど、お話がされておりました。WHOの専門家の方も、私たちがワクチンを日頃、市中で接種できるようになるまでに、最短で2年はかかるという見通しも示されているわけです。そういったことも念頭におき、このコロナ感染症対策は中長期化するという覚悟を持って臨まなければいけないという思いで、日々、コロナ対策に取り組んでいるところであります。何よりも、感染しない、感染させない行動や生活様式というものをしっかりと、様々な分野に定着していくということ。そして小金井市からも、情報発信を一生懸命尽くしていくということが大切だというふうに思っております。去る5月25日に、国による緊急事態宣言が解除されましたが、その後も感染拡大の状況は収まらず、患者発生数は今もなお、気を緩められない状況でありまして、小金井市といたしましても、感染拡大の防止に連日連夜、取り組んでいるところでございます。先日、小金井市議会でもご報告をさせていただいた内容ではありますが、PCR検査センターを小金井、府中、国分寺、国立市、4つの市の医師会の皆様方が共同して設置をしております。小金井市で

は、このPCR検査を受診する市民の方々の搬送用の車両を独自に運行しております。自動車メーカーの本田技研、ホンダ自動車が独自に改造開発をした陰圧式の車、この車をホンダ自動車さんから無償で、小金井市はご提供していただいております。業務委託する形で、連日、このPCR検査センターに、検査を受ける市民のご自宅にお迎えに行き、検査を受け、そしてご自宅にお送りするという送迎の事業をしております。これは、かかりつけ医のご紹介などで検査を受けるための事業ですが、当然、陽性の可能性のある方々でございます。電車やバスなどご利用されないほうが、もちろんいいわけであります。しかし、検査センターに行く足をどう確保するのか。ドライブスルー方式、車で行って、車窓から検査をする方式と、ウォークスルー方式とあって、特別に大型バスを改造した検査専用の車両、この2つの方式を活用しています。6月15日から8月24日までの間に、この患者専用搬送車両は、30人の方を検査場に送迎させていただきました。また、4市医師会で設立したPCR検査センターには、5月25日から検査を実施してございますが、8月17日までの間に195件、小金井市の方の検査を実施したという報告を受けてございます。市内の感染者数ですが、最新の直近では8月24日現在、95名ということであります。そして、そのうち退院などということで、東京都が公表している数字は72名ということで、累計数を公表されております。こちらは毎日、東京都から公表されている数字でございます。5月から6月にかけて、小金井市内には院内感染のニュースが報道されまして、小金井市も様々な情報を配信いたしました。東町にございます武蔵野中央病院であります。武蔵野中央病院関連の新型コロナウイルス感染症患者発生につきましては、6月25日に最後の感染が確認されてから、現在までに新たな感染者はおりません。同病院では様々なサービスが再開され、地域の医療ニーズに応じていただける体制に戻りつつあると実感しているところでございます。しかしながら、私たちもそうではありますが、この新型コロナウイルスによって、毎日が緊張状態の連続でやっています。95名、もう累計数100名に達してしまう日が目前となっている状況をしっかり受け止めて、市民の皆様方とともに、感染防止に全力を尽くしてまいりたいと考えているところであります。市では、新型コロナウイルス感染拡大に対応して、市民生活を守るため、4月24日に新型コロナウイルス感染症小金井市緊急対応方針（第1弾）、5月19日に第2弾、今月8月12日に第3弾を策定いたしました。先週8月20日（木曜日）に開催いたしました市議会臨時会におきましては、関連する補正予算案につきまして、ご議決をいただいたところでございます。この緊急対応方針（第3弾）には、一部、9月1日から開会する第3回市議

会定例会で予算化するものも含まれております。今後、この方針に基づきまして、「いのちを守る」「暮らしを守る」「地域を守る」「市民サービスの基盤を守る」の4つの施策を中心にして、感染拡大の防止と市民の皆様、医療者の皆様への支援を中心に、様々な施策に取り組んでおります。予算規模で申し上げますと、1人国民10万円の特別定額給付金というものがございました。また、国の制度として、子育て支援ということで、ひとり親家庭の方々など様々な子育て支援を行っております。まず125億円の特別定額給付金の予算を専決処分し、現在、振込の達成率は97%程度に達しているところでございます。

また、小金井市が、国や東京都の補助制度や臨時交付金を活用した市独自の様々な取組は、第2弾で約13億1,000万円、第3弾で約7億2,000万円、総計約20億3,000万円規模の感染症対策や支援策に取り組んでいるところでございます。お手元に第2弾、第3弾の資料や、関連する補正予算の資料をお配りしておりますので、ぜひ、話を聞きながら、資料にもお目を通していただければと考えております。特にその中で若干、説明をさせていただきますと、市報こがねい、約13億円と数字が書いてあるA4、1枚の資料がございます。これが第2弾でございます。この中では、様々な取組を行っておりますが、例えば小金井GIGAスクール構想を導入するという事、ちょうど真ん中辺です。7億3,600万円。子どもたち、公立小・中学校約7,600名の児童・生徒が小金井にありますが、1人1台、端末がChrome bookでございますが、こちらをお渡しさせていただいて授業や、また臨時休校などが行われた場合にはご自宅にお持ち帰りいただきまして、オンラインで授業が受けられる。あるいは朝礼ができる。ミーティングができるといった形で、小金井市で初めて1人1台のノートパソコン、端末の導入をするものでありまして、今、急ピッチで準備を進めております。全国的には非常に早いペースで、これは本市が進んでいるところでありまして、10月から11月にかけて、実際にこの端末を使った授業などを実施していく計画でございます。それから、真ん中の欄の右の一番上でございますが、これは小金井市ではハザードマップについて、都内で2番目の水準なんです。新型コロナウイルス感染予防のために、なるべく外出をしないようにご自宅にいらっしゃるご高齢者がいらっしゃいます。しかしながら、現状、皆様方ご承知のように大変な猛暑でありまして、1日100名を超える方が搬送されるなど、現在はコロナ、熱中症、台風への備え、風水害への備え、地震への備え、様々な危機に備えなければいけない状況で、複合的な管理。そんな中、高齢者の方々がエアコンをお持ちでない方もいらっしゃいます。そういった高齢世帯の方々がエアコンを入れる際に、上限5万円を補

助するという制度を取り入れまして、60名の見積もりを予算で想定しましたところ、49名の方にお申し込みいただき、順次申請手続きに基づき補助事業を実施している状況でございます。また、市内事業者の方々への支援ということで、テナントなどを借りている事業者、NPO、個人事業主の方々を対象に、前年度よりも15%の減収があった場合には、20万円を給付するという取組も続けています。また第3弾のところでは、こちらも市でお配りさせていただいておりますが、令和2年8月14日、令和2年第2回小金井市議会臨時会補正予算における対策について、約7億1,700万円の規模になっています。こちらが、可決されたばかりの最新のものとございます。医療従事者への支援、災害時における避難所での感染症対策、民間保育所への支援、幼稚園への支援、また図書館を利用するの方々にとって、緊急事態宣言中は利用できませんでした。インターネットから本を見られるように、電子図書室の開設を初めて行います。また、4月27日まで対象となっている10万円の特別定額給付金につきまして、4月28日以降、生まれた新生児、来年4月1日まで約1,000名になりますが、いわゆる赤ちゃんを対象に1人10万円の小金井市独自の特別定額給付金の事業を創設いたしました。約1,000名を想定して、小金井市は大体1年間1,000人の新生児が誕生して、約1年間ということになります。また、市内事業者への支援、大きな意味での第3弾ということで、テナント等を借りている方が今まで対象でしたが、今度は自社ビルや自宅営業、そういった、前回の対象とはなっていない方々に、15%の減収となっている事業者の方々に、こがねい事業者応援金20万円を支給する新たな事業です。第1弾の予算規模が2億5,000万円でしたが、この第2弾では約1億8,000万円の規模での事業資金を想定してございます。また、小金井市でも、プレミアム商品券を発行いたします。1万円の商品券を買っていただいて、プラス3,000円のプレミアムをつける。1万円が1万3,000円分のお買い物ができる商品券を2万部、発行いたします。来年1月いっぱいまで使える予定でございます。これが見える店舗は、およそ400店舗。A券、B券、大型店舗や中小零細など約400店舗で活用できることを想定しております。これまでにプレミアム商品券、大きな意味で2回、小金井市は全国的な政策と相まって対応しておりまして、これまでの実績を踏まえて、やります。また、「元気出せ！小金井応援前売りチケット事業」というものも始めます。「小金井弁当でディスタンス事業」というものにも、補助金を交付いたします。また、小金井市観光まちおこし協会実施事業といたしまして、ご近所活用ガイド製作やオープンスペース活用事業という新しい事業を行います。また、アーティスト支援ということで、芸術や

音楽、文化などの分野で活動されているプロの方を対象といたしまして、100名の方、5万円の動画作成の支援金ということで、新しい事業、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動の機会を失っている市内のアーティストなどによる文化芸術活動を支援する事業を行います。また、保育園で一生懸命に感染予防に努めながら働いている保育士さんの方々に、慰労品の支給なども行わせていただきます。時間の関係で、詳細な説明を省きますが、様々な取組を進めているところでございます。新型コロナウイルス、先ほども申し上げましたように、長期化ということ念頭に置いております。これまでご説明した取組で終わるわけでありませんが、これからも引き続き、新型コロナウイルスの感染対策や支援策を展開してまいりたいと思っておりますが、一方で税収の落ち込みなど、市の財政への影響も考えていかなければいけないという状況であります。これは国や東京都を挙げて、国全体で、深刻な税収落ち込みとなるであろうこの局面に、臨んでいかなければいけないというふうに考えております。一方で、これまで行ってきた市民サービスをしっかりと維持していきたいという思いもある中、これからのかじ取りは、大変厳しい局面がやってくることを想定しております。しかし、私といたしましては、市民サービスをしっかりと守っていけるように最大限、努力をしてまいりたいと思っております。

次に、本市の最優先課題であります可燃ごみの処理についてでございます。日野市、国分寺市と本市の3市で、可燃ごみの共同処理を行うことを目的に、浅川清流環境組合では今年、令和2年4月1日から日野市内での新可燃ごみ新処理施設の本格稼働を開始することができました。本来、見学会を5月14日から開始する予定でしたが、今こういう状況で、中止となっております。いずれ、見学会ができるようになりますので、その際には、ぜひ新可燃ごみ処理施設を市民の皆様方にもご覧いただきたいと考えます。この間、約13年間にわたりました可燃ごみの広域支援が、昨年度、終了いたしました。昨年度は多摩川衛生組合、ふじみ衛生組合、国分寺市からご支援をいただき、昨年12月までの間、毎日、処理をしていただきました。平成19年4月以降、長年にわたりましてご支援をいただきました多摩地域の各団体の施設周辺にお住まいの皆様、並びに全ての関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。本日お集まりの市民の皆様方におかれましても、可燃ごみ処理施設周辺にお住まいの皆様をはじめといたします日野市民の皆様、及び関係者の皆様のご負担を少しでも軽減するため、さらなるごみの減量と資源化の推進に向けまして、より一層の分別の徹底に取り組んでいただきますよう、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

続きまして、駅周辺のまちづくりについてでございます。武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発事業が、いよいよ竣工いたしました。最初の構想から含めると、およそ半世紀近くにわたって取り組まれてきたJR中央線の高架化事業とともに、小金井市の一つの大きな課題でございました。6月30日には商業施設がグランドオープンいたしました。先ほど申し上げましたように716戸の住宅部分も整備され、現在、入居が進んでいるところであります。このたびオープンいたしましたSOCOLA武蔵小金井クロス、連日、大勢の方々にお越しをいただいております。飲食、コンビニ、家電、衣料品店、様々な店舗、郵便局や金融機関等のサービス、クリニック、医療機関、薬局などもあり、皆様の生活も大変に便利になったものと思っております。私といたしましても、新たなにぎわいの場が生まれることをうれしく思っているところです。今後は引き続き、東小金井駅北口の土地区画整理事業に鋭意取り組んでまいります。また、課題となっております武蔵小金井駅北口の新たなまちづくりにも、地元の方々と力を合わせて取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、公共施設の整備についてです。現在、貫井北町にございます中間処理場の深刻な老朽化に対応するため、また暫定稼働となっている庁舎建設予定地での缶やペットボトルの施設の老朽化、こういった課題を解決するために、可燃ごみ処理施設だけでなく、二枚橋焼却場の跡地と貫井北町にある中間処理場の2か所に、新しい不燃系の清掃関連施設を再整備する計画を策定いたしました。まずは先行する形で、令和4年の春から本格稼働することを念頭にありまして、二枚橋焼却場の跡地の再整備を行っています。市議会の議決を踏まえまして、設計を一括発注により作業を進めております。この場所では粗大ごみやプラスチックごみ、燃やさないごみなどの、青い指定収集袋に入れていただいているプラスチックごみの積替え施設。そして、災害廃棄物一時保管場所などを想定してつくるものでございます。これからいよいよ、基本設計を終わりました実施設計に入ったところであります。また、市長就任以来、鋭意取り組んでまいりました長年の重要課題でございます新庁舎及び（仮称）新福祉会館建設についてでございます。基本設計を昨年度いっぱいまで終えまして、6月2日には実施設計の契約を締結いたしました。現在は、庁舎、福祉会館の複合施設建設の方針のもと、最終段階の設計工程である実施設計に入りました。今後は令和4年度の（仮称）新福祉会館の先行竣工、そして令和5年度の新庁舎竣工に向けまして、コスト削減にも努めながら、着実に事業を進めてまいります。これは小金井市政の長年の課題であります。庁舎の分散状態、深刻な老朽化、第二庁舎の賃借期間の長期

化と財政的課題、こういった様々な課題を克服すべく、全力で取り組んでまいります。防災拠点、行政拠点、福祉の拠点となる新しい庁舎です。そして、長い年月をかけて利用される大変重要な施設でございます。しっかりと履行してまいりたいと思います。

以上、時間の関係で、私からの報告はここまでとなりますが、本日は、参考に令和2年度の小金井市予算の概要、施政方針をお配りさせていただいております。現在、コロナ対策のみならず、予算の執行、施政方針に基づく様々な取組に今、鋭意努力をしているところでございますので、ぜひご参照していただければと思います。

以上、今般の新型コロナウイルス感染症対策、また、私が特に重要な課題と位置づけている4点につきまして、申し上げてまいりました。このほかにも様々な課題があります。本日は皆様方から、これから9時までの間、いろいろなご意見を拝聴させていただき、意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞ本日はよろしくようお願い申し上げます。ありがとうございました。

3 懇 談

○司会者

では、意見交換に入らせていただきます。フリーテーマということではありますが、せっかく皆さんにお集まりいただいておりますので、ほかの方が聞いてもわかるような、皆さんで共有して意見を出し合えるようなテーマをご提供いただくと、幸いです。また、なるべく多くの方にご発言いただきたいと思いますので、要点を絞って簡潔にお話しいただき、2分から3分程度でまとめてご発言いただきたいと思います。場合によって、あまり時間長いようでしたら、私のほうから声かけさせていただきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

では、ご意見のある方は挙手をお願いします。

○市民A

貫井北町のAと申します。2点ほどあるんですけども、2点とも一気にやっちゃって大丈夫ですか。そしたら、1つ目が、私は西岡市長1期目の市民と市長の座談会、4年間、前半・後半となっていて、1回ずつ、ほとんど全部、参加させていただいたんですけども、それをちょっと振り返っていただければなと思っているんですが。西岡市長、それと広報

秘書課の皆さんもそうなんですけど、この4年間の市民と市長の座談会を通して、市政にどういった影響や反映があったのかなということ、市民目線でいうと、ちょっと分かりにくいなということがあるので、それをまずお聞きしたいなということが1点です。それからもう一つが、先日、天野課長ともお話しさせていただいたんですけども、小金井市のフェイスブックのアカウントをつくりませんかという意見なんです。ツイッターとかマチマチといったSNSは、もう使われていると思うんですけど、ネット上だけでも、あんまり市政の情報が市民の皆さんに行き渡っていないことが多いなと感じることがありまして。もちろん、ネットを見ていない方への周知も大事なんですけども、ネットをふだん、かなり使いこなしている方でさえ、コロナ禍の状況もあるので、市政情報が変化することが多いと思うので、大事な情報が行き渡っていないなと感じることが多いんですね。そのときにツイッターを今、かなり力を入れて、いろいろな課が全部、稼働できるように頑張っていってほしいと思うんですけども、それを全部達成できたとしても、ちょっとそれを周知するのは難しいのかなと私は感じるので、やっぱりテキストでしっかり内容を見せて、画像でも見せられる。で、フェイスブックみたいなメディアを使ったらどうかということが、もう一つの意見です。とりあえずご意見、聴いてから、またお話ししたいと思いますので、よろしくお願いします。

○西岡市長

ご意見、ご提言いただきまして、ありがとうございます。市民と市長の座談会に出された市民の皆様方の声、ご意見で、過去4年間、開催されて、どのように反映してきたのか。また、そこで出されたご意見などが、どのように市政に組み込まれているのか、おはかりする、こういうご質問でございます。まず、私のほうで心がけておりますのは、市民と市長の座談会の趣旨は、私が市長として、年に4回と限られてはおりますけれども、私自身が出席して、様々な声を直接お聞かせいただく場をつくりたいという思い。市民と市長の座談会だけではなくて、町会・自治会の役員の方とも年に4回、新たに自由な意見交換できるという。また、テーマによっては説明会、ワークショップ、意見交換会、分野によっては様々な取組も行って、それは特定の分野について。特に庁舎などにつきましては、おそらく数えられないぐらい、相当な回数、意見交換会、説明会を開催させていただきました。また、子どもたちとの対話という意味では、公立小・中学校14校を回って、一緒に給食を食べながら、子どもたちからもいろんな声を聞かせていただきました。残念ながら

今、コロナの影響で、輪になって給食を食べることができないので、今、子どもたちとの対話についての事業を見合わせているところでございます。早く再開したいなと思います。そして私のほうで心がけていることは、出されたご意見は、私だけで把握するのではなく、市の担当部や担当課とも、こういったご意見があったよということで、私のほうから特に担当に伝えることもあります。極力、この場限りではなくて、市の担当、部や課とも、ここで出された意見が共有できるように心がけているところであります。これまで出された意見で、パブリックコメントのより、5年目ですから、おそらく16回目ぐらいだと思うんですけども、何か一覧表で、これが実現できた、これが実現できていないといった見える化と言いましょか、できていないのが現状であります。これは今後の課題とさせていただきますと思いますが、少なくとも私自身は、ここで聴いたご意見などについては大切に思っておりますし、実現できることについては努力していきたいと思っております。

なお、これがということは、今すぐにはお答えできませんが、この市民と市長の座談会で出されたご意見が、実際に反映された、実現できたことも幾つかあるというふうに考えております。2点目についてでございます。具体的にはフェイスブックを小金井市もアカウントを取得して、いろいろとお話をしていけないかというご提言でもあります。まずは小金井市では、ネットにまずホームページ、ツイッター、それから新しいマチマチというソーシャル・コミュニティ・ネットワーク、それからメール配信システムも構築しまして、安心・安全メール、これはかなりな登録者数。それから小金井のごみの分別アプリに登録していただいている方々にも、メール返信しております。また子育ての分野でも、専用のアプリなどによって情報発信をしております。現在は、SNSというのはツイッターを活用するということが心がけておまして、先々週ですけれども、私のほうから、今、各課で任意でアカウントを取得していただいて、積極的に情報発信をするように心がけてまして、現時点でたしか16課、17課でしたか。天野課長、16課？

○司会者

16課ぐらい……。

○西岡市長

16の課でアカウントを取得して、分野によっては濃淡がありますけれども、積極的なところも含めてツイッターを発信し、そして小金井市のツイッターでも、全てリツイート

する。小金井市のツイッターのフォロワー数というのは、コロナの関係で大分増えまして、6,600人ぐらいになっているわけですね。そういう状況の中で、ツイッターについては、全ての課がアカウントを取得するという方針を決めました。したがって、これから全ての課が取得します。まずはツイッターを全課が取得し、そして様々な情報発信をしていく体制をしっかりと構築したいと思っています。さらなるSNSという意味では、フェイスブックやインスタグラムなどがあろうかと思いますが、これで終了と思っておりますので、引き続き、より効果のあるといいましようか、情報発信として、より適切な拡大についても検討を、担当者などにさせていただいているところでございます。こちらについては、広報課長のほうから現状何かあれば。質問でも、SNSでも何かあれば、お伝えできることがあれば、お願いします。

○司会者

SNSの活用についてでございます。今、A様のほうからも、各課でツイッター、持つようにしているけれども、それでも足りないのではないかみたいなお話をいただいたところなんですけれども、私のほうでも、それは感じているところがありましたので、ちょうど先週8月19日からで、現状ですと、各課、希望する課にアカウントをとってもらおうという形をしているんですけれども、なかなか進まないという現状の中で、全課、取得するような形に改めたところがあります。そういったところで取得する中で、少しずつ発信が増えていけばいいなというところが、現状のところでございます。それから順番、前後いたしますが、座談会で出た意見、どれだけ市政に反映できているのかというところでございます。なかなかこういったことをやっても、質問に対して答えて終わってしまうという場合もあるのかなと思っております。で、先ほど市長からもお話ありましたとおり、なるべく生かせるのが担当部局にも伝えるという形で、事務局のほうからも声かけしているところでございます。それと、基本的にはフリートークということでやっておりますが、我々のほうで、何かこういった場を活用して、市民の意見を市政に取り入れたいという場合には、過去にもランドデザイン作成のために意見をいただいたということと、シティプロモーション基本方針をつくる際に、小金井市の魅力というのを皆さんから意見をいただくということで、活用したような事例もございます。以上でございます。

○市民A

ありがとうございます。最初の、まず座談会についてなんですけど、例えば東村山なんかの事例だと、ちゃんとかう毎回の座談会、タウンミーティングなんですけど、何人出席したとか年齢層だとかそういったことをちゃんと報告書にして、市政への反映状況なんかも資料にして報告されているようなので、やっぱり今、お話伺っていても、市民から見ると、じゃ、これに参加して、ほんとうに市政に何か反映してもらえるのかしらということがわかりにくいと思うんですよね。だから、そこがいまいち、ただタウンミーティングに来て、ガス抜きて言っちゃ悪いんですけど、そういう意味なんじゃないのと思われちゃうと思うので、実際に市民からの意見は、ちゃんと市長が聴いて、市政に活かされているんだよということが、そういう資料をつくることでアピールできると思うんですよね。だから、ぜひそういう報告を少なくとも、例えば前期後期とやったら、前期の分、後期の分、1回ずつぐらいやったらどうかなというのは私の意見です。それから、東村山のほうではウェブ会議なんかも今年からは、やっているみたいなんですよね、こういうタウンミーティング。なので、そういうことも、ぜひ検討いただいて、新しい形も取り入れていったらどうかなと思います。フェイスブックのことなんですけど、ツイッターのほうは今、本気で取り組まれているということで、それはいいことだと思うんですけど、市として今、そういう方向性ということは、よく理解できたんですけども、フェイスブックの有効性とか、その辺は、これから広がりがあるのかなと私は思っていますし、それから市長もそうですし、議員さんもそうなんですけど、かなり使ってらっしゃる方は多いと思うんですよね、市政に関係した方々は。なので、そこら辺を踏まえて、市長自身が、その可能性があるかどうかということの特に今、お聞きしたいなと思いましたので、そこをよろしくお願いします。

○西岡市長

ありがとうございます。市民と市長の座談会の報告書づくりや、出された意見がどのように反映されているのかなど、いただいたご意見、そして今後はコロナ対策によって、最近Zoom会議、オンライン会議、かなり、私自身もZoom会議やオンライン会議、様々なシステムを使った会議、かなり出席しています。大きな変化を実感しています。いただいたご意見は、反映できるように検討させていただきたいと思っております。なお、市民と市長の座談会が終わりますと、あまり間隔をあげずに議事録をまとめて、写真や議事録も公開をさせていただいております。また担当部局とも、そういった協議をしております。

ますので、より改善していけるように努力してまいりたいと思います。私自身は、ここを出された意見はしっかり受け止めております。また、フェイスブックの可能性についてあります。ちょっと今、この段階では、まだ断言ができないんですけれども、ツイッターにマチマチ、メール配信システム、これで終了と思っていません。ただ、まずはツイッターに全力を挙げさせていただきました。このツイッターを利用する学生さん、若い方もとても多いです、もちろん先ほどおっしゃったように、デジタルディバイド、つまりインターネットに接続できない方々もたくさんいるので、あらゆるツールを使って、市政の情報発信、これはもう極めて重要な課題だというふうに思っております。そういう状況の中で、さらなるSNSの活用ということは、いろいろなシステムがありますので、多角的に検討していきたいなというふうに思っております。現状については以上です。

○市民B

前原町のBといいます。幾つか、私も伺いたいことあるんですけれども、前のテーマとして、今のAさんのお話の流れで、これは市長、市役所とか市民とのコミュニケーションというテーマの一つのものだと思うんですけれども、第一として、私は西岡さん個人として、市長に対する姿勢としての意味のコミュニケーションの在り方をどう考えているんだろうというのは、ずっと思っていたんですね。小金井市、私、引っ越してきてから、まだ七、八年とかなんですけれども、いろいろな、例えばお月見イベントとか、なんちゃら、フェスティバルコートで、何度も何度も、市長のことをお見かけしているんですね。大概、関係者の方々に囲まれて、さあっと何か裏のほうにして、それで、何かその主催者の方々と和気あいあいと話したら、いつの間にかすうって。何かそこに参加している人たち、市民との誰とでも、どんどん話していこうという姿勢が見えたことがないんですね。たまたまかもしれないですけど、少なくとも私、たぶん10回以上、2桁は。そういうイベントはかなり行っている。遊びに行っているの、かなりの頻度で見かけているんですけれども、全く。私、一回、市長と話してみたいなと思っていても、話しかける隙もない。すぐに取り込まれていってしまうという。で、市長としては、これ座談会がありますよとかいうんですけれども、市長の中ではやっぱり同じく、同じ市民の声だと思うんですけれども、八戸市だって座談会があって、市長へのEメールだって、パブリックコメントだって、それぞれの市民が、それぞれいろいろ考えて出す意見だと思うんですけれども、市長としては、そういうのにいちいち順列をつけて、この意見はとか、誰々の意見はとか、どうい

ところで聴いた意見はという、そういうのをつけるんでしょうかって。これは市長の姿勢として、市民の意見を酌み取っていきたいという積極的な意思を、どれぐらいあるのかというのが、ずっと疑問で。今回、ツイッターのSNSの話もなんですけど、私はツイッターに登録してないんですね。昔、ツイッターが出始めのころ、いろいろセキュリティーに問題があるという話があったので、ツイッターが信用できないので、ツイッター、登録してないですよ、という人もいるわけですよ。フェイスブックは、やっているんですね。フェイスブックも1回ハッキングされましたけれども。でも、コピペでもいいから、いろんなものに出すというのは、そういう意味での、そういうネットに対するリスクというのをある程度、考えている人に対して、一つのSNSにしかやらないというのは、どうなのかなって。ツイッターとフェイスブックとなんちゃらと、それぞれ別の内容を出そうなんて芸の細かいことをやらなくても、コピペであっても、同じ内容を出していただくだけでも、やれば、それだけ目に触れる機会は増えるんじゃないのかなと思うんです。そういうことで、市民の意見をどれくらい積極的に聴いて、どれくらい実現していきたいと思っているのかという。意見の実現というのに関しても、先ほどから市長が何度か、関係部局とも情報を共有して、関係部局とも意見を共有して、おっしゃっているんですけども、市長というのは、その意思さえあれば、これを実現したいですと言えるわけですよ。共有するんじゃなくて、これが実現したい。これは情報として共有する範囲にとどめておく。それを選択するのも、市長というのはできるわけですよ。私が、生まれ育ちが多分、超トップダウン型で、日本全国に名をはせた区長がいるようなところで育ったので、そういうのを見て、実際にそれができるといことを知っているんで、言うんですけども。今これだけの話ができている。もうここまできちゃったから、止められないといたら、それ、都道と同じじゃないですか。ここまで来たって、あえて止めるべきことがあれば止めるということも、一つのチョイスでしたと思うし。そういう市長としてのコミュニケーションの在り方、市民から、この座談会で、いろいろなもらった意見を、どれぐらい実現したいという意思を行動に出しているかという市長の姿勢をひとつ伺いたいなと思います。

○西岡市長

ご意見をいただきましてありがとうございます。まず私自身は、先ほどイベントの、話しかける隙もないと言われてしまいました。そういうイベント、最近コロナでは軒並

中止になってしまいましたけども、このコロナの発生する前は土日祝日も含めて、もう一年中、地域に入って、市民の方々とコミュニケーションをとることに重きをおいて、市長として活動してまいりました。限られた人としか話をしないという姿勢は毛頭ありません。ただ、やたらめったら話しかけるのも、ちょっと難しいですね。なので、適切な距離感を持ちながら、コミュニケーションを一生懸命とりたいと思っています。まず、私のほうから積極的に話しかけたりするときもあるし、何か私に物言いたげだなと思っている方がいれば、どうしましたかとお声かけることもありまして、決して避けたり、ガードを固めたり、そういうことでは全くありません。市長としても、様々な団体の方々が、市長にこういう申し入れをしたい。こういう要望書を渡したい。面会を希望するということがあった場合は、スケジュールの関係で若干、例えば議会中は会えませんので日程調整できないので、少し時間をいただく場合がありますが、この5年間、ほぼ、希望する方と、ご面会で、直接会っておりました。いろいろなテーマで。それが仮に、市が向かっている方向とは、また違う方向であっても、ご面会をして、いろんな対話を重視してきたところでございます。私が市民とのコミュニケーションを避けているというような印象を持たれているとすれば、それはもう極めて残念でありまして、いろんなところに行くのも、私の姿勢の一つであります。そういう思われぬように、私がふだん考えていることをもっと行動に表れるように努力をさせていただきたいと思います。また、市民の声に優先順位があるのかということではありますが、それは、ありません。市長へのEメールで寄せられた声や、今日この場で寄せられた声や、まちで私が市民の方からぶつけられた声、あるいは市役所の窓口で、何か様々なご意見、ご質問をいただく声、私だけではなく、市政、市政関係者に寄せられる市民の声というのは、どれも同じ重みのある大切なものだというふうに思っております。いろんな手法をとっています。直接発言をいただくものもあれば、市長への手紙のアンケート。あるいは、現在、小金井市では、小金井市の最上位計画であります一番大事な計画、国でいえば憲法に当たるという基本構想、10年に1回の節目になります。第5次基本構想・前期基本計画を今、策定しています。本来でしたら、来年4月1日からスタート、その計画を最上位計画に位置づけるんですが、コロナの関係で、会議がこの間、過去2回、書面会議であったり、またコロナの影響が出る前に取りまとめた案なので、コロナによって派生した様々な事象や課題が盛り込まれていないんですね。そういったこともあって、7月17日に開催した審議会、これは市民の方々が中心の審議会です。この審議会で寄せられた大半の意見が、コロナについても、もっと議論すべき、時間をか

けるべきというご意見もありましたので、私としては延期をすることに決めました。約半年、延期をします。そして来年10月1日からスタートする計画づくり、これが約半年間かけて、審議会の方々に議論してもらっています。市には、そういった公募市民の方々が構成をしている分野別の審議会というものもあります。そういった会の声も非常に大切だというふうに考えております。私の姿勢としては、そういうことでございます。これからは様々なツール、また私の体を使って、多くの市民の方々の声をお寄せいただけるように、また声を発しやすい環境をつくっていきたいと思います。また、先ほども申し上げましたSNSについては、これでおしまいと思っております。さらなる活用を今、検討しているところでございますが、まずはツイッターの全課アカウント取得、こちらに取り組みました。そして、さらなるSNSの有効な活用についても、今、広報秘書課を中心に検討しているところでございますので、新たなSNSの拡大も、ぜひ実現をしてみたいと、このように感じております。私からは以上です。

○市民B

今ちょっと基本構想についておっしゃって、私はあれ読んで、パブリックコメントも出したんですけども。というか、あれ、こんなを出してますって、堂々と言えるほど大した内容じゃないなって、見て思ってしまって。というのは、10年単位ですよ。そういう構想ですよ。なのに、10年先の市の姿が何も見えないんですよ。長期計画というのはまず、これから何十年先の日本の環境であり、世界の環境であり、地球の環境であり、そういう環境の中で、この市をどういう市にしていきたいかというビジョンがドカンとあって、それに対して、どういうステップを踏んで実現していくかというのが、本来の長期計画だと思うんですよ。それがかけらも感じられなかった。よりよいまちにしたい。正直、これ長期じゃなくて来年の目標でも、何も内容変わらないというような、そういう内容でしかなかったと思うんですね。そういうところのビジョンが全くどーんと出てきていないで、先ほど市長がおっしゃった南口の開発も、あれを見て、私、ショックを受けたんです。まず、南口の駅前開発という大規模な開発をやるというのは、この先30年、50年先まで、建て替えることがそうないですよ。市庁舎と福祉会館もそうですよね。ということは、30年、50年先の社会、30年、50年先の小金井市をどういう市としたいか、そういうことを踏まえた開発でなければいけないんじゃないのかと思ったわけですね。今現在、30年、50年先って、人口減少が見込まれています。地球温暖化も進むと

言われています。気候危機も進むと言われています。その中で、小金井市は30年、50年先のビジョンをどう見ているのかということが、南口の開発からは全く見えませんでした、少なくとも。例えばあの建物そのものが、ZEHじゃないですけども、カーボンニュートラルを目指していくみたいな、そういうような二酸化炭素排出への配慮というのが、どれくらいあるんだろうというのも疑問でしたし、中に入っているお店も、小金井市独特なもの、独自の個性というものがあまり見えずに、同じ建物が国分寺にあっても、どこにあっても違和感ないなというようなものであった。で、市庁舎の建設に対しても、何かよく分からない何ですか、はけを表現するために壁に斜めの段をつけるとか。何かそういう問題じゃないだろうという。もっと30年、50年先、市民がどういう関わりを……。市長、市庁舎、市政に対して、市民がどのような関わりをしてほしいのかということを実現するものでなければいけないと思うんですけども、そういうものも見えなかった。それで、10年の長期計画ですら、10年先のビジョンも見えなかった。コロナを入れる、入れないという問題以前に、どういうまちにしたいのかという具体的な姿が何も見えなかった。とりあえずあれもこれも拾って、よりよいまちにしたいですとしか見えなかったんですね。そういう意味で、小金井は今まで、個性をつけるって、すごく大事だと思っているんですけども、小金井の今の個性というのは、自然が豊かなまち、自然を大事にするまちというところにあるんじゃないかと思っても、でも、じゃ、二酸化炭素の削減率というのが26市中だと、かなり下位ですよ。ワースト何位でしたっけ。というよなところにあって、それで自然を大事にする市とかいっても笑っちゃうよね。誰もそんなの、納得しないよってなりますよね。で、熱中症対策というと、お年寄りにエアコン費用を補助するのも大事だと思うんですけども、それだったらヒートアイランド対策として、もっと枝葉の繁るような街路樹を街路とか中央分離帯に植えて、アスファルトの照り返しを減らすとか、そういうところで、まち全体の。実際に生活していても、野川沿いを自転車ですうっと行くと、アスファルトのところと比べて、明らかに体感温度、涼しいわけなんですよ。くじら山とか、酷暑の38度の日だって涼しく過ごせるというぐらい、くじら山、涼しいですよ。ということは、ヒートアイランド対策をしっかりとやれば、実は体感温度って大分下げられるんじゃないのかなと思ったりもしたんですね。そういう、自然を大事にしたいのか。何をやりたいのか。一つ一つのものに、一つ一つ必死で対症療法のように対策していくけれども、軸が見えないということに今、小金井市の市政というのは、すごく問題があるんじゃないかと思っているんですけども、その軸について、どうお考

えなんでしょうか。

○西岡市長

様々なご意見をご表明いただきまして、ありがとうございます。軸は何かと問われれば、私は、持続可能なまちということに、50年後も100年後も小金井市というまちには存続してほしい。特に人口構成については先ほど申し上げましたように、これから少子化、超高齢化、人口減少という現象がもう、東京、その初動が動き始めているという状況でありますから、私としては、国連の定めているあのSDGsみたいなものも、どんどん変わっていくと思いますが、進化していくと思いますが、そういう指標なども踏まえながら、持続可能なまちがある。またもう一つ、私が常に考えているのは、小金井のまちの魅力。今、このまちが持っている様々な魅力って、たくさんあります。その魅力を失いたくないと思っけていまして、それは自然環境もそうです。特に私は人と人とのつながり、このつながりの希薄化、つまりコミュニティーの欠落というものが、人間社会に与える影響は極めて大きい。便利で利便性の高い、またICTの活用、あるいはロボットの会議、いろいろなことが、技術が進歩してまいります。しかしながら、やっぱり人間と人間との本来的なつながり、このつながりが欠落してしまうと、私は社会が崩壊してしまうと思っけています。このつながりを、いろんなつながりがあります。様々な多様なつながり。このまち小金井市は、つながりを大切にしてきたし、これからも芽生えさせたいと思っけていますし、失いたくないと思っけています。こういったつながりを大切にしていきたいというふうに思っけています。私の施政方針の中にも、このような思いを書かせていただいています。長期計画に理念、ビジョンがないという話でございました。市民の方々と交えて、かなり頻繁にワークショップ、また中学生意見交換会、高校生ワークショップ、これまでにない手法を用いて、幅広い市民の方々にたくさんの議論をさせていただきました。こういった意見を集約しながら、この長期計画は、誰か一人がつくるものではないと思っけておきまして、多くの市民の方々が、思いを集約しながらつくり上げていくものだというふうに思っけておきまして。一度、パブコメは立てましたけれども、もう半年間延長して議論を重ねて、よりよいものをつくってきたいというふうに思っけておきまして。そういう厳しいご意見をいただきましたけれども、小金井市が目指すべき10年後のあるべき姿というものを念頭におきながら、様々な分野について議論を積み重ねています。そして、今、何が課題なのか。そして、その課題を解決するためにどのような施策を打ったらいのか。数値目標はどうあるべきなのか。

こういったところについて、引き続き議論を深めて、よりよいものをつくっていきたいというふうに思っております。また、新庁舎についてでございます。庁舎につきましては設計者の方いわく、100年ぐらい使える市役所でありたいと思っているというふうにございました。大規模改修を途中で入れながら、今、建設しようとしている庁舎は新しい防災拠点、行政拠点、また福祉会館との複合というところが、小金井らしさだと思っております。今後の長い目で見た庁舎に対するビジョンが感じられないということでございまして、私のほうから、時間がないので、ポイントをお伝えしますが、1つは今回の庁舎、普通の庁舎と違うのは複合庁舎ということであります。福祉会館と同じ一体の建物でありまして、それから私は市役所というのは、行政というのは住民福祉の増進にもっともっと力を入れる時代になるし、また、そうでなければならないと思っています。市役所職員だけの建物ではなくて、そこには社協、シルバー人材センター、老人クラブ、福祉共同作業所、障がい者の方々の作業場、いろいろな分野の方々が、同じ建物の中に入ります。全国でも福祉会館との複合施設庁舎というのは、ほとんど例がありません。これからは、そういった連携、職員同士の連携、職員と市民の連携、先ほど申し上げた多様なつながりが、建物の中からも芽生えていく。そして、たらい回しに遭わない。小金井市は4キロ、3キロの非常にコンパクトなまちです。そして、そこに12万3,000人の方々が暮らしている。そして、庁舎建設予定地は市の中心部にあります。当時、平成4年に購入して約30年間、あの状態ではありますが、分散化が深刻。第二庁舎もずっと借り続けている状況。老朽化も深刻。こういう状況の中で、私は庁舎は待ったなしと。そして福祉会館との複合施設というものを一つの大きな柱としました。これから到来する超高齢化社会を見据えたときに、市の中心部につくる庁舎であれば、庁舎と福祉会館の複合、まさに防災、行政、福祉の総合的な拠点となる庁舎を私は目指しております。これが、小金井市の長期的な視点に立った判断だということで、私は一生懸命努力をして、積み上げてきたものであります。以上です。

○市民B

ありがとうございました。

○西岡市長

ありがとうございます。

○司会者

ほかの方、どなたか、いらっしゃいますでしょうか。

○市民C

こんばんは。前原町のCといいます。小金井市に引っ越して3年、子育てをするために引っ越してきました。順調にいけば、多分、来年の4月には2人目が生まれて、幸せにこのまちで暮らしております。ありがとうございます。いろいろあるんですけども、皆さんにマイクが回るように一個だけ質問したいと思います。ごみ問題についてなんですけれども、よく何か市の広報とか、あとごみ収集車にも非常事態宣言とかというのが、よく書いてありますけど、それがどれぐらい非常事態なのか、ちょっとわからないところがありまして、このままでいくと、年内にもごみ処理場がパンクするレベルなのか。50年ぐらいは、もつレベルなのか。あと、市民がごみ削減、協力お願いしますと書いてありますけれども、どれぐらい減らばいいのかとか、具体的な何かあれないと、ちょっと。うちはかなり、ごみは減らしてやっているつもりなんですけど、それでもだめだったら、もっと頑張らなきゃいけないとかって、いろいろ思っているんですけど。その辺の数字というか、感じが分からないというのと、あと、僕、引っ越し族で、もう14回ぐらい引っ越しているんですけども、その市によって、ごみの分別が違ったりすることがあると思うんです。うち、小さなマンションなんですけども、朝、ごみ捨てに行くと、よく分別されていないごみとかも、いろいろ捨てられていて、ごみの分別、ちょっと好きなんで、できる部分は分別して出しているんですよ、人のうちのやつを。その辺の分別とかも何かこう、一応カレンダー送られてきて、カレンダー見ているんですけど、ちょっと微妙な、分からないラインとかもあると思うんですよね。これ、どっちに捨てようかな。何かその辺のところとかも、もうちょっと分かりやすくという、あれですけども。ごみ削減とか、リサイクルできるものはリサイクルとか、何かそういうふうに市民がもうちょっと努力できるような情報発信があればなと思ってまして。さっき、いろいろSNSを活用したみたいな感じの話があったので、それでいうと、例えばLINEとかって、自動返信機能があるはずで。例えば椅子は不燃ですみたいな感じで、そういう自動返信機能で、このごみ、何だろうというふうにいちいち市役所とかごみ処理センターに電話できないし、あと、ごみが8時半には出すんで、朝いち、そんな電話もつながらないということで、そういう、これ何

だっけというときに自動返信で分かるようなものとかも、活用できるのかなと思っており
ます。話が長くなるので、この辺にします。

○西岡市長

ご意見、ご質問いただきまして、ありがとうございます。間もなくお二人目が誕生する
ということで、無事の誕生をお祈りいたします。ごみ非常事態宣言、どれぐらい非常事
態なんですかということでもあります。まず非常事態宣言につきましては、今年、違う標語、
かえたいと思っています。小金井市には、調布市と府中市と小金井市の3市で40数年間、
運用してきた二枚橋という場所があるんですね。野川公園と武蔵野公園の境目のあたりに、
西武線の横にあります。野川の南側です。ここで焼却場を平成19年3月末までの長い間
運転しました。私も子どもの頃は、よく絵を描きに行きましたし、そこには温浴施設があ
ったり、あるいは10円で入れるプールがあったりして、小金井の一つの何ていうんでし
ょうか。子どもたちにとっても、象徴的な場所ですね。しかし、老朽化によって、その炉
は停止することになりました。調布市さんも府中市さんも、それぞれ次の展開をいろいろ
考えられておられましたけれども、小金井市は、その後のごみの焼却施設の方向性につい
て、明確に定めることが当時できず、小金井市は自前の焼却施設を持っていない自治体にな
ってしまいました。今から13年前です。そのため小金井市は、自分たちの施設があり
ませんし、つくれなかったので、毎日出る可燃ごみを、他の自治体に緊急的に支援をお願
いし、助けていただきました。そういう状況の中で、小金井市民のごみが毎日、パッカー
車に乗って、町中を走るわけです。多摩地域の様々なところを走るわけですね。市のマー
クをつけて走ります。そして、塵芥車が毎日のように多摩地域を走る。正直申し上げまし
て、ご迷惑をおかけしました。

そのとき小金井市は、ごみの徹底的な減量と分別をしましょう。ほかの市に迷惑をかけ
ないようにしましょう。と判断し、そのときに出したのが、ごみ非常事態宣言です。

あれから13年たちまして、日野市と国分寺市と小金井市の3市で、日野市域内に新し
い焼却施設を建設して、今年の4月1日から本格稼働をスタートしました。これは非常に
ありがたいことですし、これから向こう30年間、その新しい焼却施設を確保させていた
だいた。しかし、30年後以後、またどうするか。今から、もう考え始めなければいけな
い状況です。そういったことを念頭におきながら、ごみの減量は非常に進みました。分別
も相当進みまして、今たしか13分類だったと思いますが、全国的に見ても分別の数が多

いんですね。名古屋のほうにたしか16とか18分別しているすごい自治体もあるようですよけれども、都内では非常に分別が、非常に細かく分別しているところでもあります。この成果が出まして、環境省が発表しているデータがあるんですが、平成30年のデータかな。人口10万人から、たしか50万人まで、ほとんどの自治体がここに入るんですよけれども、市民1人当たりのごみの排出量は、小金井市は全国でも一番少ない自治体になりました。これ、おそらく4年か、5年連続しています。それからリサイクル率というものが発表されていますが、50%を超えまして、平成30年度は51.3%です。これも全国でトップクラスの数字になりました。これは、焼却施設がない。近隣市にご迷惑をかけないようにしよう。そういった思いで頑張っていた市民、あるいは事業者の方々の努力によって、この市民1人当たり全国で一番少ない排出量、そして高いリサイクル率を達成しました。私としては、これからもこの頑張ってきた流れを継続したい。マンションのごみを自ら分別しているということをございまして、ありがとうございます。分別が楽しくなるぐらい徹底すると、おもしろいかもしれません。私も今ではいっぱい小分けにビニール袋に入れて、ペットボトルのキャップ、缶、ペット、びん、乾電池、燃やす、燃やさない、プラスチック。僕の家周りも、分別するために袋がいっぱい並んでいます。でも今、それが楽しいですね、正直申し上げます。そういう努力をしているんです。あと小金井市のすごいところは、例えば大型スーパーの方々も自主回収をしているんですね、発泡スチロールやペットボトルや牛乳パックや。ある小金井市の有名な大型スーパーの、別なところから異動してきた新しい店長さんがいらっしゃって、その方とお話ししたときにこうおっしゃっていました。びっくりしました。私は関東でいろんなスーパーの店長をしてきましたが、こんなにたくさんごみを持って、たくさん出されるお店は初めてです。比較になりません。ほかの市の比較にならないぐらい、たくさんの方々のごみを持ってきてくださいます。ほんとにごみの減量分別に熱心な市ですねということに驚いていました。ほんとに5倍とか10倍とか、おっしゃっていました。それはほんとに小金井市民の皆様のシビックプライド、誇りにしていただきたいと思っていますところでもあります。小金井市で新しい取組としては、リサイクル事業の中では3Rの推進ということで、様々なことに取り組んでいますけれども、先ほどLINEの活用というお話がございました。おそらくそれはAI（人工知能）を活用したチャットボットのことをおっしゃっているのかなと思います。簡単な質問でしたら、もう人間ではなくてAIが答えてくれるという仕組みで、導入している自治体も研究をしています。私どもとしても、ごみの分野がいいのか、別な分野がい

いか分かりませんが、LINEあるいは様々なシステムがあると思いますけれども、AIを活用したチャットボットの導入も今、行政系のところでは検討しているところがございます。分別でそういうのを取り入れたらどうだというのは、非常にいいご提案です。確かに分別、迷う方が多いと思います。分からないときは、ぜひ遠慮なく、お気軽に市役所に業務中、お電話をしてください。担当職員は一生懸命、回答します。しかし、なかなか手間だし、かけづらいし、ちょっと引いちゃいますよね。そういうときにLINEとかで、これはどういうふうに捨てたらいいんだという何かキーワードを入れれば、返ってくる。そういう仕組みがあると、ほんとに便利だなと思います。これはぜひ、既に検討もしていますが、実現させたいテーマかなと私自身は思っています。以上です。

○司会者

今、ごみの捨て方について悩むときがあるというようなお話もいただいたので、ちょっと事務局のほうから参考になんですけども、ごみ分別の手引きって冊子をご覧になったことございますでしょうか。

○市民C

はい。

○司会者

そちらを紹介しようかと思ったんですが、そちらをご覧になったということはあるということでしたら、そちらに五十音別で一覧になったものが出ておりますので、もし参考にいただければと思いますので、以上です。

○市民C

ありがとうございます。

○司会者

ほかにございますでしょうか。

○市民D

貫井南町のDと申します。お忙しい中、市民のために座談会を開催していただきまして、ありがとうございます。私が初めて座談会に出席させていただいたのは、東小金井のマロンホールだったと思います。あのとき、街路灯の件で、市長さんのほうにちょっとお願いにあがりまして。でなんか、市のほうのあれで、市長さんのほうには、何か詳しく伝えてなかったらしくて、いろいろありまして、先月、街路灯の件につきましては、建設委員会の委員長さんが東京電力の方に連絡とっていただいて、担当課と係長と担当者の方、何か面談してくださいまして、その後に私が担当課長さん、係長さん、担当者、議員さん、含めまして、ちょっとお話しさせていただきまして、お隣の街路灯は撤去していただくことになりましたので、ここでご報告させて、ありがとうございます。いろいろお手数をおかけいたしました。ただ問題なのは、今、お隣に係長さんのほうがお話しなさってしまっていて、どうも代替機なんですかね、どうしても撤去するにあたっては、もう必要なところがあるということなので、私に存置されている電柱は使えませんので、電柱の隣にポールを立てて、街路灯設置をお願いしております。あと、東電のほうやらなければいけない、ちょっと法令上、引込線の高さが足りないというのがございまして、そこについては一応、議員さんが話されたのは武蔵野支社の社員さんですけど、街路灯、お隣につけたときの話は、多摩支店、八王子なので、八王子のほうの東電のほうに行って、話をしてみいました。それが6月かな。それで、引込線の工事はしてありませんと。それで、その緊急車両が通れなくて、事故が発生した事例があるので、この工事はしなければいけないと思いますということでしたし、今、小金井市のほうと街路灯撤去の話をしていますからということで、まだ八王子のほうには連絡しておりません。で、今月中に担当課長さんのほうに面談をお願いしておりますが、もうこれ、平成19年から東電とずっとやってきた問題なので、申しわけございませんが、行政相談員の方も、市長さんと一度、面談なさってくださいということだったので、定例会が終わりましたら、ぜひ面談のほうをお願いしたいと思ひまして、今日お伺いしました。よろしくお願ひいたします。

○西岡市長

ありがとうございます。ご質問者の方は市民と市長の座談会など、何度も話をしているしやる。お手紙、市長への手紙など、多数お寄せいただいております。担当ともども情報は上がってきております。一定、解決に向けて、これまでになかった現象が出てきているということについては、今後のことについては、また第3回定例会が終わったら、そうい

う面談の機会をいただきたいということでございましたので、担当課とも相談させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

○司会者

ほかにごございますでしょうか。もしなければ、2回目の方も含めまして。

○市民E

すみません。2回目の質問させていただきます。年度末か何か市から広報として新聞が来ると思うんですけど、何か市の財政状況みたいな感じの円グラフになっているやつの中で、たしか市の借金ですかね、何十億あるみたいな感じのことを書いてあって、それについて、一般家庭と市を比べるのはちょっとどうかと思うんですけども、市の赤字、借金というのは、どれくらい深刻な問題なのか。この程度だったらいいのかとかいろいろ一市の財政は、黒字にしていくことだけがいいわけじゃないと思いますけども、どういふふう市に財政状況をよくしていくのかとか、お考えがあれば、お願いしたいなと思いました。

○西岡市長

ありがとうございます。市の財政状況の今後の見通しと、小金井市の対応状況ということでもあります。市の借金、いわゆる起債ということでございますが、多いときで総額、たしか300億円を超えていた時代があります。小金井市は下水道事業、これはかなり早くやったんですね。しかし、当時、一般の規模からすると、かなり多額な起債を発行して、当時の経済状況、人口、急激な高度経済成長時代を考えれば、先見の明があったとなりますし、時にして将来負担、20年、30年と借金をして行っていく事業、つまり多世代にわたって使っていくもの。今だけではなくて、孫の世代、また次の世代まで使っていくもの、ライフライン、例えば道路や橋、下水道、水道、こういった事業というのは比較的起債を、つまり、借金をして行っていく事業が多い。これは小金井市だけでなくて。

しかし、それは返済が終わりまして、その後、小金井市はJR中央線の高架化事業、私が小金井市に住んで、今、41年なんですけども、開かずの踏切というのは有名だったんですね。小金井市は、ここに市があるとすると、この中心、ど真ん中を中央線が走っています。南北が完全に分断されちゃいまして、踏切がほとんど開かない状態。このJR中央

線の高架化、これはもう長年の悲願でした。これが実現して、今、15年ぐらいたつんですけれども、総額1,800億円近い事業で、国、JR、東京都、地元、たしか6つの自治体、みんなでこうスキームを組んで、約1,800億円の事業費を捻出する。小金井市は三鷹―立川間で、実は44%の面積を占めていた。この三鷹―立川間の高架化の事業は、小金井市にとっては極めて重要かつありがたい事業でございました。

しかし、小金井市がこの事業のために負担した事業費は95億円です。この一部について起債して20年間かけて返済をします。今でも返済しています。こういった市民生活を守るために、やむなくといたしましょうか、起債を起こさざるを得ないものがあって、それが積み重なっているのが起債残高です。これは今、年々減っています。どんどん減っていきまして、今、資料がなくて、ほんとにすみません。かなり減っていきまして、200億円を切ってきている状況で、減ってきています。それは今の大きな起債事業が、今のところこの10年ぐらい、なかったからです。しかし今後は、これから先は民生費、つまり子育て支援、高齢者支援、こういったいわゆる福祉の関係の予算が今、どんどん右肩上がりです。そして人口減少、高齢化、税収は落ちていく。収入は落ちていくだろうと言われている中で、支出が増えていくことは明らかなんですね。ですから、財政運営は非常に重要で、おっしゃるとおり。それにもまして、これから何が発生するかというと、高度経済成長期につくったたくさんの施設、公共施設が一気に更新時期を迎えています。例えば学校、小金井市には14校の公立小・中学校がありますが、ほとんどが昭和30年、40年代に設立された学校ばかりです。あれから、もう50年、60年。これから一気に建て替えるのか。長寿命化をするのか。こういったことを選択が問われます、一つの計画を練り上げるときに。あるいは保育園、集会所、いろんな施設が老朽化しています。市役所もそうです。この小金井市が抱えている公共施設の35年間の更新費用の総額は、約1,500億円かかると試算。これをこのままやるのは不可能です。不可能です。破綻してしまいます。ですから賢く、そして統廃合するとか、あるいは先ほど庁舎と福祉会館を複合といたしましたけれども、民間活力の導入も含めて、賢くといたしましょうか、知恵を出しながら、この公共施設の大更新に備えていかなければいけないと思っております。借金は今は減りつつあるんですが、これから庁舎建設や公共施設に取り組むので、また一定の起債をしなければいけません。しかし、それが急激に膨らむと、財政状況を圧迫しますので、なるべく平準化していけるようにしていかなければいけないだろうというふうに思っています。じゃ、そのために小金井市は何をやっているのかということですが、やはり歳入の確保です

ね。そして、算出の見直し。行財政改革プラン2020というものを策定しながら、いろんな取組を行っています。小金井市の財政状況は、東洋経済新報社だったと思いますが、全国ランキングというのが発表されていて、たしか最新のもので30何位だったと思います。そのランキング上は決して悪くないし、小金井市は以前に比べれば、財政状況はかなり改善しています。しかし、それはまだまだ渦中ですし、これから先、さらに財政悪化する不安要因、リスクというのは、たくさんあります。私は厳しい財政状況だという認識をしていますので、やはり歳入歳出両面からの不断の見直しをしっかりとしていきたいと思っています。市民サービスを維持していける財政状況になるように、これからも努力をしていきたいと思っています。以上です。

○司会者

ほかの方、いらっしゃいますでしょうか。

○市民F

すみません、すごく早口になっちゃってすみません。伺いたいのは、先ほど人とのつながりを大切にすることを軸にしたいとおっしゃっていたんですけど、私、市に来て、何か小金井市って財政がひどいから、その分、市民とかボランティアさんとかが、ものすごく頑張ってくれて、おかげで人とのつながりが今あるじゃないかなと。むしろ行政が無力だから、市民が頑張らざるを得なかった結果じゃないかなと。思っていて。というのは私、今、子ども2人いるんですけどもね。2人目、妊娠中のときに切迫流産というのをして、絶対安静にしてないと流産するって言われたんですね。だから、市の市役所に出向いて、そういう事情なので、上の子を保育園に預けさせていただきませんか。上の子の面倒見ていたら流産しちゃうかもしれないんです。絶対安静なんですよといったんです。そしたら言われた言葉が、「分かりました。そんなに預けたいんなら、今からパートを探してください」、これ、ほんとに言われましたよ。で、上の子がちょっと病気をして、治ったんです。で、治って、病院の先生から、むしろこの子はどんどん刺激、成長に当たって、赤ちゃんのときですけどね、刺激を与えたほうがいいから、一時保育でも何でも、どんどん保育園に預けてください。で、小金井市立の保育園に、そういう事情なんで、一時保育に登録させてください。この病気の既往がある人はできません。お医者さんがいいって言っているのに、預けても全く問題ないってお医者さんが言っているのに、そう言われた。

そういう市のどこが、人とのつながりを大切にする姿勢があるのかなって、ずっと思っていたんですね。結局、そうやって困った私を助けてくれたのは、ボランティア団体の方々だったんですよ。市として、市の姿勢として、人とのつながりをどう大切にしているのかなって。具体的に何をどうやって、つながりを積んでいく。つながりを育てていくというものを育てようとしているのかなというのが、ちょっと一個疑問だったんですね。あともう1個だけ、すごいささやかなことなんですけれども、座談会で私もずっと緊張して経っているんですけれども、何かせつかく座談会というんだったら、直線とかじゃなくて、もっと輪になって、みんながわいわい言えるようなもののほうが楽しいなとちょっと思います。

○西岡市長

ありがとうございました。保育園に行ったときにそういう対応を言われたのは何年前なんですか。

○市民F

上の子の出生というのは7年前、病気のことは7年前でした。下の子妊娠中というのは、下の子が今、5歳なので、五、六年前です。

○西岡市長

まず、市の職員、そういう生活の、身体の、命が宿っている妊婦さんとして、胸の痛むような発言をしたということはお詫びをしたいと思います。接遇面と言いましようか、市の職員の皆様方とは、常に市民の皆様方に接する対応などについては、丁寧に行っていきたいというふうに考えておりますが、現状、そのような発言がないように、改めて心がけてまいりたいと思います。つながりをどのように大事にしていくのかということ、私や市の行政という立場をあく人間として、大切にしなければ、やはり現場に出るときとか地域に出るといふこと、もうその視点があることで、いろいろな気づきや人間関係やコミュニケーションが芽生えてくると思っております。私自身も含めて、積極的に地域に出ることによって、見えなかったものが見えてくる。現場にこそ、様々な気づきがあると思っておりますので、地域に積極的に出ていく、この姿勢をもっともっと大切にしなければいけないと私自身は思っておりますし、これからも、そういう姿勢を大事にしていきたい

と思っております。座談会をもっと雰囲気、丸くなってということだったんですが、今まで私は椅子だけ置いて、椅子だけを周りに並べて、輪になって座談会をやっていました。しかし、今日はコロナ対策ということで、かなり密になってしまうので、やむなくこういう形式になっています。早く輪になって、和室でも輪になって、話がしやすいような形で、お茶でも飲みながら、和菓子でも食べながら、時に笑いながら意見交換ができるような、そういうときが来るといいなと思っております。そうなるように一生懸命頑張りたいと思います。以上です。

○市民F

どんどん現場に出ていくようにということなんですけれども、すごく抽象的過ぎて、じゃ、人と人とのつながりを大切にするまちというのを具体的にどういう手段をもって実現しようというビジョンはあるのでしょうか。

○西岡市長

手段は様々あると思います。また、行政だけがそのコーディネート役をするということも難しいと思います。市民と市民とのかけ橋役に、もちろんなりたいと思いますが、小金井市役所の職員も、正規職員670名、会計年度任用職員330名、合計1,000名の職員が今、働かせていただいております。一人一人の職員がベストを尽くすことは言うまでもありませんけれども、先ほど小金井市はお金がないから、市民が頑張る。そう言われているよという話は、ありがとうございます。私もそういう意見はたくさん聴いています。今後は、そういうことは言われないように。でも、行政と市民との間にあまり壁をつくりたくないとも思っています。市の職員であり、市民である者もおります。しかし、市の職員であり、小金井市に全員が住んでいるわけではありません。そういう意味からも、市の職員の方々には地域に入って、具体的にどういうことかということでもあります。例えば入庁3年未満の若い職員は、ほぼ必ず地元のNPOに研修に入っています。いろいろなNPOの方々、20団体ぐらい登録していただいているんですが、そこに若手職員は必ず研修に行く。そのNPOが果たしている役割を実際に経験し、一緒に仕事をして、一緒に汗をかいて、そしてNPOの対象となっている市民の方々との対話をしたり、NPOの目的を達成するための活動に取り組んでいます。例えばこういう取組を、私は非常に意味があると思っていまして、この研修はNPOからも非常に好評でして、

市の職員とのつながりができた。今後、困ったことがあったら、この職員さんに相談できるかなとか、一緒に同じ職場、同じ活動をするということで、これは無であった関係が、ゼロだった関係に対して関係性が生まれますので、例えばでありますけれども、入所5年目の職員が必ずNPOに研修に行く。一緒に活動する。こういう取組は、これからも続けていきたいなと思っております。これはいい取組だと思っています。

○市民F

それはそれで一つの取組と思うんですけども、やっぱりそれでも何というのか。例えば駅前南口に高層マンション、ツインタワー建ちましたよね。あそこに引っ越してくる人たちが、みんなみんな、小金井市ってこういうまちだからいい、選んで引っ越してきたというわけじゃなくて、多分、大部分の人は、駅近で予算的にちょうどよかったから、そういうところって大きいと思うんですよ。そういう人たちを、NPOとかというのは、もともとそういう地域のつながりに興味があって、積極的に活動している人たちじゃないですか。そういう人たちじゃないという言い方も変ですけどもね。ふだん、そういうのに関わっていない一般の市民たちを巻き込んでいくための手段というんですか。仕掛けというか、そういうのを積極的につくっていこうという何かしらのビジョンはあるんでしょうか。

○西岡市長

市民の方々は、年齢層、また置かれている立場も様々であります。特に今は、例えば町会や自治会の加入率が4割切ってしまうている。いざ災害が発生したときのことを考えると、みんなで避難所で生活をするとなったときに、隣近所の方々を何にも知らない方と、やはり日頃からコミュニケーションをとっている方とでは、運営の在り方に大きな差が出てくる。東日本大震災でも、特に阪神・淡路大震災でも、地域のコミュニティーがある。そうした防災訓練などを通じて積極的だった地域と、そうでない地域とでは、いろいろなデータで差が出てきたということが、後々明らかになっています。例えばですけども、防災という観点で考えれば、地域の方々との関係性というものが町会・自治会、子供会あるいはPTA、サークル、いろいろな分野があると思いますが、そういった分野になるべく多くの方々が関わっていただくということは、ほんとに大切だというふうに思っています。じゃ、その仕掛けは何なのかということで言えば、例えば今、小学校にはおやじの会

ができていて、お父さん方が積極的に今、地域に関わり始めていて、例えば第三小学校のおやじの会などは非常に活発です。緑小にもおやじの会ができました。これはむしろ行政が意図的に仕組むというよりは、自発的に芽生えてきた動きです。こういった芽生えてきた動きをしっかりと支援をしていくんだという姿勢も、とても大切だと思っています。そのお父様方が、何もなければ、全く知り合うことがなかった。しかし、おやじの会を通じて、子どもたちの安心・安全、あるいは最近ではICTの支援、インターネットの環境の接続ができない家庭を助けようじゃないかということで、コンピュータに詳しいお父さんたちが、行政だけではできないので、積極的に関わっていかうという動きをしようとしてくれているところもあります。こういった一つ一つの地域の中で過ごされている方々が、そのコミュニティーに入ることによって芽生えてくる様々な事象というのを、私としては、そういうものが生まれてくる地域にしていきたいというふうに思っております。まだまだ意を尽くしていない部分もあるかもしれませんが、やはり孤立、困ったときに助けてくれたのはボランティアだったというのは、半分うれしいし、半分、行政が何もできなかったということで、反省もしなければいけません。小金井市には、私はこのまちには誇れる地域の財産、誇れる市民とのつながりというものが、あるまちだと思っています。しかし、そういったものと全く関わりを持たない方がいらっしゃるのも、おっしゃるとおり課題は、そういった方々がどう関わってくださるか。ただ、今回コロナによって、はっきり分かったことは、今までほとんど、会社に行って、小金井に帰ってきて寝るだけという方が、在宅あるいはテレワークなどによって、今まで以上に地域で、小金井市内で過ごす時間が多くなりました。そういった関係で、例えば今まで気づかなかった公園の物足りなさとか、今まで行かなかったお店、意外とここの食事おいしいんだとか、小金井っておいしいレストラン多いんだとか、あるいは特別定額給付金などもそうですが、これまで以上に地方行政に対する関心、あるいは感染症に対する関心もそうですが、地元の医療機関に対する関心など、これまで以上に、コロナの発生したことによって、地域にどこまででも市民の方々が極めて高い関心を示さざるを得ない、示していただいている。私は、そういう変化が確実に起きたなというふうに思っています。そういう中で見えてきた小金井市政の至らなさや足りない部分というのものも、痛感しています。そういったことを今回、感じた次第です。よろしくお願いいたします。

○市民F

具体的には、どういうふうに至らなくて、足りないと感じられたのでしょうか。

○西岡市長

例えばですけれども、多くの方が小金井市立公園を今まで以上に、例えば子どもさん、子どもたちも臨時休校でしたから、体がなまってしまって、公園などを利用された方が多くて。しかし、公園に行ってみると、水飲み場がない。トイレがない。草がぼうぼうとしていて、管理が行き届いていない。ごみが散乱している。こういった声が多数寄せられました。例えばですけれども、今までやってきた小金井市の市立公園の管理の体制が、この在宅や臨時休校によって、毎日、自宅で過ごしている方々の日常の生活に全くマッチしていなかったということなどが見えてきました。

○司会者

残り時間わずかになってきましたので、今まで発言されたことない方、もしご希望あればですが。よろしいでしょうか。

○市民G

先ほど財政の話で、ちょっと出てきたんですけど、公共施設の再配置をこれから、かなりやっつけていかなきゃいけないという話があったと思うんですけど、図書館とかが、もうかなり老朽化していますし、庁舎の移転した跡地の活用だったりとか、その辺のいろいろ考えなきゃいけないことが、すごくあると思うんですけど、そのあたりは、どのようにというか、少しそういうビジョンはあるのかどうか。多分、1期目の任期のときは、庁舎、福祉会館を建て替えるということにご尽力されていたと思うんですけども、2期目以降はそれが一番の大仕事かなと私は思っているんです。その辺の、どの時期ぐらいをめどにやっつけていこうと思われているかということとか、どういう再配置方法だとか、その辺のもしお考えがあれば、ちょっとお聞かせいただきたいなということと、もう一つだけ、小さいことなんですけど、市歌を去年つくられたと思うんですけど、その活用方法がちょっと滞っていると思うんですよね。先日、市議会の報告会にも行って、ちょっと意見、言ったんですけど、防災無線に使える、一番効果的に使えるんじゃないかなと私は思うんですけど、それがなぜ進まないのかなということは、ちょっとお聞きしたいなと思います。以上です。

○西岡市長

ありがとうございました。時間があと残り7分ぐらいしかありませんので、その中で収まるように回答させていただきたいと思います。先ほど申し上げましたように、小金井市の今後の最重要課題がたくさんあります。その中で、公共施設の今後の施設の再整備というのは、極めて重要な柱になっています。これは理由としては、巨額な財源が必要になるということ。範囲が非常に多岐にわたるということ。そして、この取組を怠れば、市民の方々の命に関わってしまうということでもあります。避けては通れない課題だということです。非常に難しい課題ではありますが、質問者のご指摘のとおり、私の2期目としてもそうかもしれませんが、今の市政にとって、この問題は大きな課題だと思います。1期目のときに公共施設等総合管理計画というのを立てました。今後の公共施設の在り方についての基本的な考え方をまとめたものです。総量抑制であったり、施設の在り方について、いろんな角度から検証してまとめたというだけです。そして施設白書や、これまでにつくってきた市の様々な保有データ、そういったものを参照しながら、今、個別計画を立てています。各部で管理している施設の更新計画を立てています。先ほど申し上げたように、小金井市の公共施設の60%以上は学校教育系が占めています。つまり学校の施設、校舎、体育館ですね。どのような方針で延命を図るのか。長寿命化していくのか。小金井市は今、子どもたちの数が増え続けています。地方のように急激に減少して、統廃合を今、検討するような状況ではありません。当面、14校はこれからも必要になってくると思います。そういう大前提に立って、この学校は全部立て壊して、暫定のプレハブの校舎を何年か建てて、そしてその間に新しい校舎を建てる。あるいは、この学校は基礎を生かして、なるべくお金をかけないようにしながら、長寿命化を図る。あるいは、その他の方法。そして、学校を全面的に建て替えることになれば、その学校の周辺にあるコミュニティー施設などを一緒に統廃合、複合施設として活用できないかなど、そういった検証をこれからしていきます。今、その個別計画を立てているところでございます。図書館についてのお話がありました。図書館については、もうしばらく活用させていただきたいというふうに思っております。これからの課題は、老朽化しているのは公立保育園の園舎、公立小・中学校の14校、それから公民館。で、清掃関連施設はいよいよ計画が立ちました。庁舎も立ちました。福祉会館も立ちました。つまりは社会教育と学校教育のお金が非常に大きいんですね。ここは市民生活に直結する部分でありますので、公共施設等総合管理計画に基づいて対応しますが、まだ金額、財政経路を示している状況ではありませんが、これは10年、

20年、30年かけて取り組む公共施設の大きな、歴史的に見ると、高度経済成長期で一気につくった施設で、50年、60年。ほんとに大きな節目を迎えていまして、かなり財政規模が大きくなります。そして将来負担についても、これは市民の方々と情報共有しながら、対応がなければいけない課題だなと感じています。それから2点目のご質問が……。

○市民G

市歌……。

○西岡市長

市歌についてです。防災行政無線、問題は今回の緊急事態宣言で、防災行政無線は活用させていただきました。しかし、場所によっては聞こえづらいとか、いろんなご意見をいただいたところであり、また最近、新しい建物、マンション、分譲住宅は密閉性、防音性が高く、基本的に外の音がなかなか聞こえない。そういう構造になっていて、防災行政無線、室内に向けての様々な情報発信、こういったものを検討しなければいけないと思います。市歌を防災行政無線で流さないのはなぜですかというご質問ですが、正直申し上げまして、まだまだ市民の方々に小金井市歌というものが十分こう、まだ誕生したばかりということで、1年半ぐらいたちましたか。突然、知らない音楽が流れることによって、いろいろとご意見もあるかなという思いがあります。まずは、今は普及というふうに思っています、合唱連盟やサークルや学校などで、なるべく歌っていただけるようにして、まずは普及することに努めていきたいと。私も行く行くは、防災行政無線で、メロディラインとしてはとても美しい旋律なので、2曲あるんですけども、それと市歌が流せるようにしたいなと思っています。しかし、時期を考えなければいけないかなと思ったところがあります。以上が答弁です。

○市民G

ありがとうございました。公共施設の再配置のほうについては、私もワークショップとか参加したりしましたので、どういう問題があるのかということは大体分かるんですけど、例えば大きな問題として、庁舎の跡地をどうするだとかそういうこともあるだろうと思います。市歌の話のほう、そういう話を以前にもお聞きしたんで、そういうお答えだろうなと思ったんですけど、要は防災無線で流したほうが、知名度が上がりというか、それ、逆

じゃないかなと思うんですよね。だからそこは、なぜそういう発想になるのか、ちょっと分からないというのが正直なところです。

○西岡市長

ありがとうございました。庁舎建設、今の本庁舎の跡地の話題でありました。小金井市が保有している公有財産、公共施設の中で、未利用、目的を十分に達成できないという意味、あるいは有効活用したほうがいいというものに関しては、もちろん市民の方々とも協議、意見交換やいろんな検討は必要ですけれども、全ての公共施設を使い切るということに、私はこだわっていませんで、むしろ民間に、皆様方に有効活用してもらったほうが、その土地の価値が高まる。まちづくりに貢献できる。こういった分野もあろうかと思えます。例えば売却という道もあります。それはそのまま市の財源に、あるいは定期借地という方法もあります。あれはPPPやPFIのような民間資金を活用して、一緒に共同で新しいプロジェクトを持ち上げるような事例もございます。こういった多角的な方法を検討して、市有財産の有効活用を図り、時にそれが財源となって、小金井市の新たな政策に転換できるという姿勢も、分野においては必要かなというふうに思います。市歌については、まずは愛される市歌になるように一生懸命努力したいなと思っていますので、もう少し周知にお時間をいただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。時間ですので。

○司会者

それでは、お時間となりましたので、以上をもちまして、令和2年度第2回市民と市長の座談会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。